

栃木県の国際化政策を考える

- 2050 ~ 2100年を見据えた栃木県の国際化戦略構想とは -

開倫塾 塾長 林 明夫

1. 基本認識 - 栃木県の国際化政策をつくる上で必ずおさえるべきポイント -

FTA (Free Trade Agreement 自由貿易協定) や WTO の促進による人、もの、金融サービスの移動の促進が必至。これらの大きな流れに対して何も手を出さず流れにまかせておくことは栃木県の2050年度を考えるとできない。

とりわけ FTA の促進を念頭におき、どのような戦略を構想すべき

栃木県の国際化戦略構想上より伸ばすべき長所とは、改善すべき点は何か。

国際化戦略構想上の「しくみ」のみがき込みの方法

2. 栃木県の長所とは - 精神と自然、産業 -

中世文化(精神)の中心

-) 足利学校.....学問的中心
-) 日光東照宮...宗教的中心
-) 奥の細道.....文学

* 鎌倉時代・室町(足利)時代・江戸時代の文化こそが日本の独自性、アイデンティティ (identity)。その本流が栃木にある。

自然

-) 日光、那須
-) 温泉

* 「いやし」。自然にふれながら「内面的充実」をはかることのできる栃木。

第2次産業の中心

-) 先端産業集積地栃木
 - a 低公害自動車産業
 - b 宇宙航空機産業
-) 最先端の進出企業のメッカ、栃木

3. 改善すべき点

外国との関係で「資本の移動」、「物の移動」、とりわけ「人の移動」の基本的条件が全くといってよいほど未整備なのが栃木。

そこで、FTA の大幅促進に耐えられる独自の産業別に国際化戦略構想を策定すべきと考える。

- <第一次産業> 農業
- <第二次産業> 製造業
- <第三次産業> 流通業
- <第四次産業> 純粋サービス業

行政および市民社会、Civil Society の国際化

-) 栃木県の全部局の国際化推進
-) 全市町村の全部局の国際化推進
-) 栃木県の国際交流団体の活性化
-) NPO・NGO・コミュニティビジネスの国際化による活性化

教育機関の国際化

-) <初等教育>
-) <中等教育>
-) <高等教育>
-) <生涯教育>
-) 多様性 (diversity) をあるがままに認めた上で、関係の方法を工夫することによって衝突 conflict をできるだけ回避するための教育、つまり「異文化教育」および、「外国語教育」がカギとなる。「外国語教師育成プログラム」と「外国語教師センター」づくりが急務。異文化教育戦略構想・外国語教育戦略構想

4 . 栃木県の国際化に向けての手法(プロセス)

ベストプラクティスのベンチマーキング(Best Praetice の Bench Marking)

県内、国内、国外

決め手は栃木県の国際化の担い手が戦略的に育成すること

国内、国外に向けての栃木県独自の PR(Public Relation)の手法の確立を。

* 英語だけでなく、ハングル語、中国語、タガログ語、タイ語、スペイン語、ロシア語、ドイツ語、フランス語、イタリア語などのホームページ作成は急務。

5 . おわりに - 国際化戦略構想による栃木県経済活性化 -

栃木県の自然と精神、文化、産業のよさ伝統を最大限尊重、継承しながら 2050 ~ 2100 年を見据えた国際化戦略を構想し、日本一、アジア一、世界一の国際化された栃木県を目指すことにより栃木県経済の活性化と県民生活の向上を目指す。

(2003 年 4 月記) 栃木放送「開倫塾の時間」5 月 3 日放送分